

学校便り

滑川市立西部小学校 R6.2.1

学校教育目標 「三つの花」を咲かせる西部っ子 芝生



にこにこ花 楽しくあいさつができる子
ほかほか花 相手の心を思いやることができる子
きらりん花 キラキラと自分らしく輝く子

避難所での落ち着いた行動

能登半島地震から、1 か月がたちました。石川県内には、まだ安否不明の方が残るなど、大きな災害の爪痕は残っておりますが、現地の一部の小学校が約2週間遅れの始業式を迎えるなど、一歩ずつ着実に復興が進んでいます。

今回の地震では、西部小学校も避難所となり、多くの地域住民が身を寄せることとなりました。数として、およそ200人。ここまで、大々的な避難所開設は初めてのことであったので、いろいろな問題、課題が出ることも覚悟しておりましたが、目立ったトラブルもなく、翌日の午前8時頃には無事避難所を閉鎖することができました。

振り返ってみると、西加積地区は、毎年のように地域をあげて防災訓練を実施しています。地区公民館長の新村さんは言います。「災害があった時、西部小に集結する訓練を続けて4年。今回の地震では、町内で互いに声を掛け合って避難できた。これまで訓練してきたことが、今回の避難につながった」まさに、これまでの努力が迅速な避難や避難所での落ち着いた行動につながったといえます。他にも、「何かお手伝いすることはありますか」「人手が必要なら、みんなに声をかけてきますよ」と率先して行動する方も何人も見られました。

地域での助け合いの姿勢は、地域のコミュニティそのものです。学校としても、地域コミュニティの要所として、今後も地域との連携を深めていきたいと思っております。

教頭 飛弾 直樹

西部小ホットコラム

「特別の教科 道徳」を家族の話題に、ぜひ！

学習参観を通して、道徳の授業を参観された方も多いでしょう。どのような感想をおもちでしょうか。担任として、気になっています。学校では、子供たちの現在の様子を踏まえ、学年の発達段階に応じた指導を通して、自己の生き方について考えを深め、よりよい生き方を求めて実践しようとする子供の育成に努めています。

授業のねらいを達成するために、本校では学習の中心に話し合いを取り入れています。教師による「強引な我田引水＝道徳的価値の押し付け」にならないように、なるべく「自然な感情の流れ」を尊重するようにしています。そして、授業の終わりには、教師自身の今の考えを正直に語ることを心がけています。私たち教師も、人としてまだまだ未熟です。明日は別の思いが強くなるかもしれません。10年経てば時代も変わり、別の考えになるかもしれません。子供たちであればなおさらです。子供たちの話し合いを基に担任は話すのですが、どの考えもすてきだなと思うと私はこう話します。「お家の人と話し合ってみるのもいいですね」と。子供たちは、お家の方がどんな考えをもっておられるのか関心をもっています。わずかな時間で構いません。問いかけられた際には、応えていただければ幸いです。（3年1組担任 中山 幸子）

この他にも子供たちの日頃の学習の様子は、学校ホームページに掲載しておりますので、是非、ご覧ください。